

## 韓国

### マクロ経済動向

韓国銀行（中央銀行）が、1月26日に公表した実質GDP（速報値）によると、2009年の成長率は0.2%となった。これはアジア通貨危機でマイナス成長を記録した1998年以來の低水準ではあるが、世界金融危機の影響で先進各国がマイナス成長に陥る中、比較的良好なパフォーマンスを示したともいえる。

同時に公表された2009年第4四半期の成長率は、季節調整値で前期比0.2%に止まり、前期の同3.2%から低下した。需要項目別に見ると、内需の最終消費支出は前期比マイナス0.7%と減少したが、固定資本形成は前期比1.7%増で前期の同1.5%を上回った。一方、外需の財・サービスの輸出は前期比マイナス1.9%となった。

上記GDP公表時の記者会見において、韓国銀行の金明紀経済統計局長は、韓国経済の回復は継続しており、第4四半期の停滞にも関わらず、2010年の経済成長率が韓国銀行の予測値4.6%に達することは可能との見方を示した。マイナスとなった消費についても、12月の実績が反映される暫定値では、上方修正の可能性があるとしている。

産業生産指数（季節調整値）は、2009年12月に前月比2.4%増となった後、2010年1月は同0%の横ばいとなった。これは自動車販売の税制優遇措置が昨年末で終了したこと、半導体関連の設備投資が一巡したことなどが影響していると見られる。また2009年通年の産業生産指数は前年比マイナス0.7%となった。

失業率（季節調整値）は2009年12月に3.6%だったものが、2010年1月には4.8%に急上昇している。失業者数で見ると1月は前年同月比36.8万人増の121.6万人となり、2000年2月以来の高水準となった。統計庁ではこの状況を、景気回復によってこれまで就業をあきらめていた層が求職活動を再開したため、と分析している。労働市場の今後の動向が注目される場所である。

2009年の貿易収支（IMF方式）は561億ドルの黒字で、黒字幅は2008年のおよそ10倍を記録した。2008年12月は40億ドル、2009年1月は15億ドルのそれぞれ黒字となった。

物価の動向は、消費者物価上昇率が、2009年12月に前年同月比2.8%、2010年1月に同3.1%となった。また生産者物価上昇率は、2009年12月に前年同月比2.0%、2010年1月に同3.1%となった。

為替レートは2009年12月には1ドル=1,139ウォン、2010年1月は同1,157ウォンと、リーマンショック後、大きくウォン安に振れた一時期と比べてウォン高の水準で安定している。

### バンクーバー五輪の経済効果

2月に開催されたバンクーバーオリンピックにおいて、韓国選手団はフィギュアスケート・女子シングルの金ヨナ選手の金メダルなど合計14個のメダルを獲得し、過去最高の成績を上げた。サムスン経済研究所はこの活躍の経済的価値が、20兆2,000億ウォン（約1兆6,000億円）に相当するという試算結果を発表した。これによると内訳は、直接効果としてはメダリストがテレビに露出した時間を広告費に換算した“国家広報”効果が1兆2,000億ウォンに相当としている。間接効果としては国家イメージの向上が韓国企業のブランド力に貢献し、輸出拡大などで売上高を14兆8,000億ウォン増加させる、などとしている。さらに社会・文化効果として、社会統合、“スポーツ外交力”の強化、2018年冬季五輪の平昌誘致への弾み、などを上げている。

前号で紹介したように、サムスングループ前会長の李健熙氏は、冬季五輪誘致活動への貢献を理由の一つとして、有罪判決を受けた背任罪を赦免されている。今大会でもサムスングループはメダリストへの報奨金の提供などの支援活動を通じ、好成績に貢献したと捉えられており、国民的な盛り上がりの中、冬季五輪は結果として、李氏への社会的評価を回復させる契機となるのかもしれない。

（ERINA調査研究部研究主任 中島朋義）

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	09年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	09年11月	12月	10年1月
実質国内総生産 (%)	4.2	5.1	5.1	2.2	0.2	0.1	2.6	3.2	0.2	-	-	-
最終消費支出 (%)	3.9	4.8	4.7	1.6	1.3	1.2	3.0	1.0	▲0.7	-	-	-
固定資本形成 (%)	2.4	3.6	4.0	▲1.7	▲0.9	▲0.4	4.3	1.5	1.7	-	-	-
産業生産指数 (%)	6.4	8.4	6.9	3.4	▲0.7	▲2.7	11.4	7.2	1.3	1.8	2.4	0.0
失業率 (%)	3.7	3.5	3.2	3.2	-	3.5	3.9	3.7	3.5	3.4	3.6	4.8
貿易収支 (百万USドル)	32,683	27,905	28,168	5,669	56,128	8,309	17,576	14,703	15,540	5,842	4,023	1,549
輸出 (百万USドル)	284,419	325,465	371,489	422,007	363,534	74,421	90,360	94,781	103,971	33,992	36,010	31,007
輸入 (百万USドル)	261,238	309,383	356,846	435,275	323,085	71,418	73,970	84,845	92,852	29,535	32,920	31,468
為替レート (ウォン/USドル)	1,024	955	929	1,103	1,276	1,418	1,286	1,239	1,168	1,166	1,139	1,157
生産者物価 (%)	2.1	0.9	1.4	8.6	▲0.2	4.2	▲1.0	▲3.2	▲0.5	▲0.5	2.0	3.1
消費者物価 (%)	2.8	2.2	2.5	4.7	2.8	3.9	2.8	2.0	2.4	2.4	2.8	3.1
株価指数 (1980.1.4 : 100)	1,379	1,434	1,897	1,124	1,683	1,206	1,390	1,673	1,683	1,556	1,683	1,602

(注) 国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、産業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、産業生産指数、失業率は季節調整値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成は2000年基準、生産者物価、消費者物価は2005年基準

産業生産指数は鉱業、製造業、電力・ガスを含む。

貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース

(出所) 韓国銀行、統計庁他